

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871200154
法人名	有限会社 ウイズ・ケイ
事業所名	グループホーム あんど
所在地	愛媛県西条市桑村456番地
自己評価作成日	平成24年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>一人の人間として接し、喜怒哀楽が出せるように。又、いろいろな役割を持ち普通の生活ができるよう支援している。そして、いろいろな事にチャレンジして、生き生きとした表情で過ごせるようにも支援している。 常に「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるようにしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●日記を書く方には、職員が声かけして、続けられるようサポートをされている。事業所で看取った利用者のご家族には、その後も年賀状を出しておられ、「近くにきたから」と、事業所に立ち寄ってくださる方もいる。 ●居室には、テレビを持ち込んでおられたり、ご家族の写真や100歳のお祝いの表彰状等が飾られてあった。ご主人の位牌には、お茶とお水を供えられるように職員が準備されている。毎日、日記を付ける方は、日記が手に取りやすいようにベットサイドに置いておられた。居間でおしゃべりした内容やテレビを見ていて分からないことがあると、居室に戻って百貨辞典で調べるような方もいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あんど

(ユニット名) じぞう村

記入者(管理者)

氏名 楠橋 昌美

評価完了日

24 年 8 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「共耕共遊の里」を理念にしており、生きがいのある人生と一緒に過ごすことを目指している。職員は理念について理解しており、ミーティング等で、理念に基づいた自分達の介護について話し合っている。又、地域の方や来られた方にも理解してもらえるよう玄関前の掲示版に掲示している。	
			(外部評価) 開設当初作成した「共耕共遊の里」の理念を、玄関入り口の掲示板や事務室に掲示されている。事務室には、理念とともに「利用者と家族、スタッフ、地域の人達と共に生活を築き、生きがいのある人生と一緒に過ごす」等、理念の解釈を掲示して、職員に分かりやすいようにされていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 中学校の福祉体験の講義や、実習の受け入れをしている。又、お花見や夏祭り等の行事では地域の皆さんとも交流をしている。時々、近隣の方が野菜や花を届けて下さり、その際、お年寄りともよくお話しされている。	
			(外部評価) 法人代表者は、地域の中学校に出向き「認知症について」お話しされたり、生徒が高齢者の疑似体験をする機会を作られた。又、生徒は、事業所に福祉体験に来られて、利用者の髪を乾かしたり、カルタ取り等を通じて介護の体験をされた。事業所は、開設10年目を迎えられ、運営推進会議等を通して地域の方との関係も深まってきている。事業所主催の「夏祭り」時には、自治会長や民生委員の方が歌を披露してくださった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、認知症の理解や接し方の勉強をしたり、認知症の方の相談にアドバイスをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、現在取り組んでいることについて報告し、意見ももらっている。運営推進会議メンバーとは、何でも言い合える関係ができています。	
			(外部評価) 会議は、ご家族、自治会長、民生委員、前民生委員等が参加されている。事業所から行事報告を行い、参加者からの質問等に答えられたり、時には、代表者・管理者が講師となり、「認知症について」「インフルエンザについて」「肺炎について」等の勉強会を行なうこともある。ご家族からは「面会の時の手洗いの大切さがわかった」等の感想もあった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 月に一度介護相談員が来訪して下さり、いろいろアドバイスをいただいている。又、何か分からないことがあれば、市担当者の所に、直接出向いて尋ねている。	
			(外部評価) 運営推進会議には市の担当者や介護相談員も参加してくださっている。又、月に1回、介護相談員を受け入れておられ、利用者と一緒に折り紙やドリルを行いながらお話を聞いておられる。相談員の方は、「この前は読めていた漢字が今回は読めなくなっている」等、気付いたことを教えてくださっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については勉強会をしており、全職員が理解をしている。玄関やデッキの出入り口には施錠はしておらず、入居者の状態をよく観察し、声掛けや見守りをし、違うことに目が向くような工夫をしている。職員間の連携もできており、その方のことを把握できている。	
			(外部評価) 「自宅に帰りたい」という気持ちが強く、玄関から出て行こうとする利用者には、職員は、ご本人の行動を止めることなく、見守っておられる。居間から出られるデッキも、自由に出入りできるよになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待については勉強会をしており、お互いに言葉使い等、自分では気がつかないことに関して、声を掛け合っている。代表者、管理者は、職員がストレスをためていないか、疲れていないか様子を観ている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) この一年で、学ぶ機会は設けておらず、一部の職員しか理解できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書や重要事項説明書については、時間を十分とって丁寧に説明しており、納得したうえで同意をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会で出た意見や悩みは皆で話し合っている。又、来訪時、家族より色々相談を受けた時には、家族と一緒に考えるようにしている。月に一度、手紙にて状態説明を行っているが、面会時にも状態(最近の)を説明するようにしている。 (外部評価) 「家族会」は、事業所の行事と合わせたり会議形式で、年4回ほど実施されている。ご家族から「たよりや面会時だけでは利用者の普段の様子がわからないので、毎月手紙で本人の様子を知らせてほしい」と要望があり、遠方に住むご家族や来訪の少なめのご家族に、毎月手紙や電話で報告することを始められた。事業所の催しは、歌や踊り等、利用者の出番を作り、ご家族等にみてもらえるよう企画されている。又、利用者の状態変化を受け入れにくいようなご家族には、利用者と一緒に過ごしていただくような機会を作り、現状を理解いただけるよう取り組まれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 自分達の意見、思いを出せるような雰囲気作りやコミュニケーションを取り、こちらの意見を押しつけないようにしている。毎朝のミーティングや、いろいろな場面で職員の意見を聞き、話し合い、どうした方がいいか一緒に考えている。	
			(外部評価) 居室の場所やご自分の席を間違ふことのある利用者がおられ、職員からの提案で、氏名表示を漢字からひらがなに替え、間違ふことが少なくなったような事例がある。夏祭り等の出し物は、それぞれ職員が決めておられ、利用者と一緒に踊ったり歌ったりして、喜んでもらえるように企画されている。職員は、「今後、もっと研修に行きたい、他のグループホームと交流してみたい」等、希望されており、今後さらに、職員の向上心や意欲を支援して、事業所のケアサービスのさらなる質向上を目指していかれてほしい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得には全面的に協力しており、資格手当も支給している。代表者も介護に入っており、職員の苦労や悩みは分かっている。又、職員にストレスや悩みがないかよく観察し、疲労が蓄積しないような勤務表を作成している。	
			(外部評価) 事業所内では、その時の状態に合った研修(ターミナル、アルツハイマー型認知症の周辺症状等)はしている。又、急変があった時の対応もできるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。	
			(外部評価) 連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。	
			(外部評価) 連絡協議会や研修の際にて、他の施設職員と意見交換はしているが、まだまだ地域の同業者との交流は少ない。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接を行い、ご家族や本人の状況や思いを把握し、本人が安心できるよう何日間か体験してもらっている。他の入居者達とも馴染むことができ、本人が少しでも不安なく入居できるようにと思っている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談や申し込みに来られた時に、困っている事や家族の思いをよく聴き、受けとめ、助言を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族にとってどうすることが一番望ましいか話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護する、されるではなく、共に支えあい、寄り添って生活している。昔のことをいろいろ教えてもらったり、入居者からいたわってもらったりする場面もある。又、いろいろな場面で喜怒哀楽を出せるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出の際、家族も一緒に出かけたり、いろいろな行事に参加してもらい、一緒に過ごす時間を作っている。又、本人の様子や思いを手紙に書いて送っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 昔から利用している美容院に行かれている方や、同級生や友達が訪ねて来られ、楽しそうに話をされている方はいる。又、月に一回、宗教の集会に行かれる方もいる。 (外部評価) 2ヶ月毎にご家族と、馴染みの美容室に出かけて、毛染めやパーマをかける利用者がいる。お盆の頃には、ご家族と墓参りに出かけたり、帰省するご家族と一緒にご自宅に泊まる方もある。日記を書く方には、職員が声かけして、続けられるようサポートをされている。事業所で看取った利用者のご家族には、その後も年賀状を出しておられ、「近くに来たから」と、事業所に立ち寄ってくださる方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の性格や利用者の関係性は把握しており、それぞれ孤立しないように席を決めている。それにより、お互いに助け合い、楽しく会話もできている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) お盆やお正月に、こちらに帰ってきたからと、会いに来てくださる方や年賀状を下さる方はいる。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、本人の本当の思い、希望を把握するよう努めており、それを口頭や手紙にて家族に伝えたりしている。それにより、定期的に外出、外泊したりもされている。 (外部評価) 管理者は、「利用者のうわべではなく、本音を知るように接してほしい」と職員に伝えておられる。利用者から意向や希望が聞き取りにくい場合には、ご家族にも聞くようにされている。入居当初から「自宅での生活を希望」されている利用者で、幻覚や幻聴がみられる方がおられ、専門医を受診できるようすすめ、医師と相談して薬を調整し、事業所でも規則正しい生活を支援して、状態が落ち着かれて、ご家族の協力のもと、ご自宅に戻ったような事例がある。	前回の外部評価実施後、利用者から知り得た情報を見やすく整理するための職員の「書き込みノート」を作っておられたが、記入は少なく、活用するまでには至っていないようだ。事業所は、職員の異動も少なく、職員は、利用者のことをよく知っておられるようだが、利用者が重度化して、ご本人の暮らしの意向や希望を知ることが難しくなった時にも、ご本人の情報をいながら暮らしを支援していけるように、アセスメントの工夫をさらに検討されてはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族が来られた時にさりげなく聞いたり、日々の暮らしの中で本人に尋ねたりしているが、細かい情報は得られていない。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できる、できないシート、分かる、分からないシートを作成しており、それぞれに把握している。又、状態について毎朝のミーティングで話し合っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の来訪時に状態を説明し、家族の希望や意見を聞いており、本人にとってどうすることが一番望ましいのか一緒に考え、話し合っている。又、職員は日々の暮らしの中で、本人の本当の思いを知るようにしている。遠方の家族には、手紙や電話にて話し合っている。	
			(外部評価) 介護計画は、3ヶ月毎に見直しをしておられる。前回の外部評価実施後、「ご家族とよく話し合い、ご家族やご本人の希望を計画に取り入れる」ことに力を入れて取り組まれた。ご家族からは「字を書かせて下さい」「歩かせて下さい」「今の状態がキープできたら良い」等、要望が出されており、計画に反映して支援されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録には、日々の様子や本人の言葉、状態、それに対する対応がよく分かるよう詳しく書くようにしている。又、状態や気づき等毎朝のミーティングで話し合い、全職員が共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、希望により病院への送迎や受診など支援は行っている。その都度話し合い、臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアで髪のカットに来てもらっている。又、かご作りを教える方に来てもらい、皆で、外出用のバックを作った。それを今年の夏祭りに持って行かれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 往診時、希望により家族と医師が直接話ができるようにもしている。服用してる薬や採血の結果等も報告している。又、かかりつけ医の受診には、家族と共に付き添ったり、職員だけが対応することもある。	
			(外部評価) 協力医療機関の医師が2週間に1回、利用者全員の往診に来られている。専門医への受診は、ご家族が付き添われるが、状況によっては管理者も同行されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護者は常に状態を観察しており、何か変化があれば、すぐに提携医療機関の看護師に連絡を取り、24時間いつでも対応してもらえるようにしている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には、本人の状態を詳しく口頭と文書で説明している。頻繁に見舞うようにし、家族や医療機関と情報を交換している。又、退院に向けての話し合いをしたり、本人とも関係が途切れないようにしている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナル期、看取りの事例もあり、その都度、家族、本人、医師、事業所で話し合い、対応している。家人がいつでも会いに来れるよう柔軟な対応にしており、協力、連携も取れている。	
			(外部評価) 重度化した場合や終末期のあり方については、利用契約時に説明を行い、希望を聞いておられる。事業所では、2月に看取りを支援した事例がある。終末期を過ごすにあたり、ご本人に食事のにおいやみんなの話し声等が聞こえるよう、居間や食堂に近い居室に移っていただいたり、ご家族が来られた時には、いつでも泊まれるように簡易ベッドを用意された。管理者と24時間連絡が付く体制を作り、夜勤の人員を増やし、協力医と連携して支援に取り組まれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急法の勉強はしており、夜間時の対応などシュミレーションも行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 訓練は年2回実施している。1回は夜間を想定した訓練をしており、意見も出し合っている。又、地域の消防団や近隣の方に協力をお願いしている。連絡網も作成しており、職員は全員把握している。 (外部評価) 消防署職員の立ち合いのもとで、訓練を行っておられ、11月には、夜間想定消防訓練・救急救命法を習った。5月には、通報、避難、消火訓練を実施された。事業所では建物の隣に空き地があり、ご家族や近所の方・消防署には「災害の時には、私たちはこの空き地に非難をして動かないで待っています」と伝えておられる。スプリンクラーも整備された。	事業所では、今後、発電機の購入や備蓄できる水・食糧の確保を検討しておられた。又、9月の運営推進会議時には、緊急連絡網に職員以外に、近所の方も加わっていただくことをお願いする予定になっている。さらに、災害時、地域の方達と助け合えるように、事業所でどのようなことができるか職員で話し合ったり、又、地域の方達が事業所に望むこと等も聞いてみてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 全職員、守秘義務については十分理解している。そして常に人として尊重した対応をするよう心がけている。又、本人の気持ちを第一に考え、自尊心を傷つけない、自信につながるような声掛け、対応をしている。 (外部評価) 管理者は、「普段、家族が行なっているような声かけ」ができるように職員に話しておられる。調査訪問時、職員は、エビの皮むきをしてくださる利用者「○○さん、上手にできたねえ」「○○さんさすが、早いねえ」等と声をかけておられた。おむつ交換を行う際には、居室の戸を閉めることや、排泄を失敗して自室に下着を干しておられても、ご本人が気付かないよう洗濯する等、職員は、利用者のプライバシーに配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員側が決めたことを押しつけたりせず、自分の意志で決められるような声掛け、対応をしている。言葉を発することができない方には、表情や態度を見て、気持ちを汲み取るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れの中で、本人の希望を尋ねたり、様子を見ながら声掛けをしている。できるだけ一人ひとりのペースで生活できるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その時の気分で、自分が着たい服を選んでもらっている。又、季節の話や気温の話をして、適切な衣類が選べるよう支援している。言葉を発せない方には、様子をよく観て、本人が快適に過ごせるように支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材を見て、料理の話しながら献立を決めたりしている。又、調理の下ごしらえや、片付けなども一緒に行い、職員も同じテーブルで楽しく食事をしている。できるだけ旬の物を出すようにしており、それにより話はずんでい	
			(外部評価) 代表者は、市場で新鮮な魚を手に入れ、メニューに採り入れておられる。その他の食材も、旬のものを中心に職員と利用者で献立を相談して決めておられる。調査訪問時の昼食メニューの中に「お五目」があり、食事中、利用者と職員は「お五目は炊いてから混ぜるんよね」「そうよ。ここら辺の郷土料理で、昔からお五目言うんよ」「最初から一緒に炊くのは炊き込みご飯よ」等と、会話しながら食べておられた。きざみ食・ミキサー食の利用者の方には、職員が食材を説明しておられた。食後、職員が洗った食器を拭いている利用者の様子がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その方の病状やその日の状態も知った上で支援している。状態によっては、食事形態、調理法、量を工夫している。食べ方をよく観て、その場で形態を変えることもある。できるだけ自分で食べれるよう支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 入居者の状態に合わせて、口腔ケアの声掛け、誘導を行い、見守り、介助を行っている。プライバシーを配慮し、居室内洗面所でもらっている。又、残差物がないよう配慮しつつチェックしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンはチェック表により把握しており、その方に合った声掛け、誘導をしている。本人の様子をよく観察し、さりげない声掛けをし、失敗した場合でも自尊心を傷つけないよう配慮している。できるだけ日中はトイレにて排泄できるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>頻繁にトイレに行く利用者の方には、間隔を確認できるように、トイレに行った時間を利用者自身が記録できるよう取り組み、「さっき行ってからまだ〇分しかたってないね」と、利用者確認することを繰り返し、頻繁にトイレに行かなくてもすむようになった事例がある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェック表で便の状態は把握している。個々に合わせ、起床時に冷たい水や牛乳を飲んでもらったり、ヨーグルトやバナナ、食物繊維の多い食事を出している。又、軽い運動をレクリエーション等に取り入れている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>なるべく本人の希望に添うようにしたいが、無理な場合がある。暑い日が続いており、できるだけ汗を流してもらいたいと思っており、2日に1回は入れるよう支援している。入浴後は、居室にて休めるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者は、お風呂のお好きな方が多く、菖蒲湯やゆず湯等も楽しめるよう支援されている。入浴時、利用者は、お若い頃の話をよく聞かせてくださるようだ。異性の職員が入浴介助する時には、必ずご本人の意向を聞くようにされている。浴室にはシャワーチェアー、浴室内にはすべり止めマットが整備されていた。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>一日の中でリズムはできており、個々の体調やペースで居室にて横になられている。又、状態に合わせて、居室や昼に横になるよう声を掛けている。日中活動することにより、皆さん夜間よく眠られている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更があった場合は、連絡ノート、口頭で全職員が分かるようにしている。個人別処方薬や個人記録にていつでも薬の目的や副作用が把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれに役割はできており、お互いに協力しあって行っている。又、その方に合ったいろいろなレクリエーションも考え、楽しめるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) あんど公園にて家族も一緒におやつを食べたり、一緒に外出したりされている。7月29日の夏祭りでは、今治湯ノ浦ハイツホテルに皆で出かけ、家族や地域の方達と楽しい時間を過ごした。皆さんの前で、歌や和太鼓を披露した。 (外部評価) 「普段あまり行くことのない湯ノ浦ハイツへ、利用者全員を連れて行ってあげたかった」という事業所の思いのもと、湯ノ浦ハイツにて、「第1回あんど夏祭り」を、運営推進会、家族会と兼ね、総勢80名が参加して行われた。又、初詣や大島のバラ公園、伯方島に桜を見に行かれたり、ショッピングモールへ出かけ、外食と買い物等を楽しまれている。	事業所では、「もっと外出の機会を持ちたい」と考えておられるが、「利用者の身体機能の低下」のことや「車椅子でも使用できるトイレのある場所探し」等、外出することに難しい面があると話しておられた。ご家族や地域の方等の協力を得ながら、日常的な外出支援ができる取り組みを期待したい。さらに、利用者が行きたいところや懐かしい場所に出かけてみるような機会も作ってはどうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族との話し合いにより、原則的にはお金は持たれていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 居室に電話を設置しており、ゆっくり会話ができるようにしている。又、家族に電話をしたい場合はいつでもかけられるよう支援している。年賀状は欠かさず書かれており、家族も喜ばれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用の空間では、安全に配慮した環境設備を整え、室温(ホール、居室、浴室等)にも留意している。夏場には簾を設置したり、季節感を味わえるようデッキに出れるようにしている。又、季節感のある壁面飾りを一緒に作成しており、その時期に合った飾り物(雛人形、五月人形、クリスマスツリー、笹飾りなど)をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>窓から見える周りの山や緑は、季節を感じさせてくれる。ウッドデッキは両ユニットにつながっており、犬を二匹飼っておられる。壁面には、利用者と職員で作ったコスモスやお月見の貼り絵が飾られていた。食堂の椅子には椅子靴下を履かせて、滑り止めと音消しになっていた。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室内で仲良く話しをしたり、廊下端の畳ベンチでゆっくり過ごせるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>以前から使っていた椅子やタンス、思い出の物(写真や小物)を持ってこられている方はいる。又、ご主人のお位牌を持って来られ、朝晩、お茶、お水をかえられている方もいる。が、殆どの方は、使い慣れた家具の持ち込みは少ない。しかし、今の居室が住み慣れた状態であり、居心地よく過ごされている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、テレビを持ち込んでおられたり、ご家族の写真や100歳のお祝いの表彰状等が飾られてあった。ご主人の位牌には、お茶とお水を供えられるように職員が準備されている。毎日、日記を付ける方は、日記が手に取りやすいように、ベットサイドに置いておられた。居間でおしゃべりした内容やテレビを見ていて分からないことがあると、居室に戻って百科辞典で調べるような方もいる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとり「できること、できないこと」シートを作成しており、ミーティングでも話し合い、職員は状態を把握している。その中で、少しでも自立した生活ができるよう声掛け、対応をして自信につながるようにしている。</p>	